

# 令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

## 水球競技戦評

期日：令和7年8月18日（月）  
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

8

帽子的色 白

帽子的色 青

乙訓

2

0	-	8
1	-	10
0	-	13
1	-	10
PSO		

埼玉栄

41

審判1： 御崎 智徳

審判2： 蛭名 広貴

戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）、大会2日目の8月18日（月）、山口県きらら博記念公園水泳プールで行われたゲーム8は、全国でも屈指の実力を誇る埼玉栄高等学校（青帽）と、初めて女性監督の指揮で全国舞台に挑む乙訓高等学校（白帽）の一戦となった。実績ある強豪と新進気鋭の挑戦者の顔合わせは、多くの観客が注目する試合となった。

第1ピリオド、試合開始直後から埼玉栄の猛攻が炸裂する。⑤菊池が巧みなポジショニングで立て続けにゴールを奪うと、④稲垣や⑪狩野、⑫村田らも次々と得点を重ね、あっという間に点差を広げた。乙訓も④松尾を起点に攻め込むが、ゴール前で粘り強く守られ決定打に至らない。序盤から埼玉栄の速攻と厚みある攻撃力が際立ち、スコアは0-8と大差をつけられた。

続く第2ピリオド、乙訓に待望の初得点が生まれる。④村田がペナルティを獲得し、③木村が落ち着いてシュートを沈めた。会場から大きな拍手が湧き起こり、チームの士気を高める一撃となった。しかしその後も主導権を握ったのは埼玉栄だった。⑤菊池の力強い突破、④稲垣の冷静な試合運び、⑫村田や⑩木嶋の多彩な攻撃が次々と実を結び、わずか1ピリオドで10点を奪取。ハーフタイムを迎えた時点で1-18と、圧倒的な展開となった。

第3ピリオドに入っても流れは変わらない。埼玉栄は攻守の切り替えの早さを武器に、カウンターからの得点を重ねる。特に⑪狩野の連続ゴールや⑤菊池の攻撃参加が光り、④稲垣も冷静にチームを牽引した。乙訓は⑨福本が退水を誘発し反撃の糸口を探るも、堅牢な守備を崩すには至らず。ピリオドスコアは0-13とさらに差が広がり、試合の趨勢は明らかとなった。

しかし、乙訓は最後まで諦めなかった。第4ピリオド、④松尾が右サイドからのパスを受け力強くゴールを決めると、仲間たちも気迫のこもったプレーを続けた。キャプテン⑧津田を中心に最後まで声を出し続け、攻守で粘りを見せた姿勢は会場の観客に強い印象を残した。対する埼玉栄も、選手交代を積極的に行いながら全員が攻撃に絡み、最終的に⑧池田や⑨遠藤らも得点に加わった。GK①伊藤のファインセーブも見られ、試合を通じて集中力を切らさない戦いぶりはさすがであった。結果は2-41で埼玉栄の勝利。全員が高い技術と戦術理解を持ち、どの場面からでも得点できる総合力を示した。キャプテン④稲垣のリーダーシップと⑤菊池の圧倒的存在感、さらに控え選手を含めたチーム全体の厚みが勝利の要因となったといえる。ディフェンスでは相手の攻撃を早い段階で潰し、即座にカウンターへ転じる理想的な水球を展開し続けた。まさに大会優勝候補にふさわしい強さを披露した。

一方、敗れた乙訓高校も、初の女性監督のもとで堂々と戦い抜いた。④松尾の力強い突破、③木村の冷静な得点、そしてGK①伊藤の果敢なセーブは記録以上の価値を持つものだった。何より女性監督のもと、チーム全員が最後まで諦めずに声を掛け合いながら戦う姿は、今後の成長を期待させるものであり、大きな拍手を浴びた。

圧倒的な攻撃力で試合を支配した埼玉栄、そして果敢に挑み続けた乙訓。結果は大差となったが、両校がそれぞれの持ち味を存分に発揮した試合は、観客に深い印象と感動を残した。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原

